

| 学校教育目標：たくましくしなやかに、明るい未来を創造することができる、知・徳・体の調和がとれた生徒の育成 | | | | | |
|--|--|--|----|---|---|
| 本年度の重点目標 (評価項目) | 具体的な活動計画 及び 評価指標 | 自己評価 | | 学校関係者評価 意見 | 次年度への 課題と改善策 |
| | | 達成状況と実施状況 | 評価 | | |
| 1【学校経営】 | | | | | |
| ①笑顔があふれ、温かい言葉が交わされる学校づくりをめざす。 ①生徒会活動の活性化やKCLGの取組の更なる充実をめざす。 | ・生徒一人一人の個性を尊重し、積極的に声かけ(賞賛、感謝、激励等)を行う。 ・ポジティブな行動支援(PBS)を意識して、望ましい行動を褒める。 【評価指標】 ・「学校生活が楽しいと感じる」 生徒：90%以上 ・「子どもは学校へ行くことを楽しみにしている」 保護者：90%以上 | ・75%の生徒が、学校へ来ることが楽しいと回答した。 ・98%の保護者が、子どもは学校へ行くことを楽しみにしていると回答した。 ・多くの教職員が生徒に対する声かけ(あいさつ、言葉遣い等も含めて)を日々実践している。 | B | ・あいさつや言葉遣いについては引き続き指導を継続してほしい。 ・学校評価アンケートの保護者の回答率が低下していることに問題がある。QRコードを読み取る形式のアンケート形式に数年前から変えているが、回答していただけない家庭も少なからずある。来年度は紙でアンケートを行うことも視野に入れてはどうか。 ・アンケート内容も時代とともに精選していく必要がある。 | ・あらゆる機会(登下校時、休み時間、清掃時等)を捉えて全教職員があいさつや声かけを引き続き実践していきたい。 |
| ②全ての教育活動の充実を図りながら、家庭や地域に信頼される学校づくりをめざす。 | ・担任等による家庭連絡をはじめ、各種便りやメール、ホームページ等を有効に活用し、情報交換、情報発信に努める。 【評価指標】 ・「学校は積極的に情報発信に努めていると感じる」 保護者：80%以上 ・「学校は子どもの様子等について、家庭との連携がとれていると感じる」 保護者：80%以上 | ・99%の保護者が、学校は積極的に情報発信に努めていると回答した。 ・95%の保護者が、学校と家庭の連携がとれていると回答した。 ・99%の保護者が学校での学習状況や行事の開催などPTCや学年だよりなどで知ることができていると回答した。 | A | | ・保護者から学校に相談しやすい環境づくりをさらに努める。 ・ホームページ等を活用して、学校行事などの情報発信を積極的に行う。 ・引き続き、担任等による家庭連絡を密にしながら情報交換、情報共有に努めていきたい。 |
| ③教職員としての誇りと自覚を持って教育活動に取り組むことができる、働きやすく働きがいのある職場環境を構築する。 | ・業務の適正化と質的転換による働き方改革を推進する。 ・風通しのよい職場づくりと教職員間の協力体制の整備に努める。 【評価指標】 ・「働きやすく働きがいがある職場であると感じる」 教職員：90%以上 | ・100%の教職員が、働きやすく働きがいがある職場であると回答した。 | A | | ・教職員一人一人の働きやすく働きがいのある職場をめざした組織づくり、校務分掌などを行う。 ・効率的で適正な部活指導の充実を図る。 |
| 2【学習指導】 | | | | | |
| ①ユニバーサルデザインの視点に立った教室環境や授業づくりに努める。 ①生徒の実態を考慮しながら、書く活動や話し合う活動を充実させ、魅力のある授業づくりに取り組む。 | ・授業の流れの提示を徹底する。 ・授業研究会や授業研修ウィークを通しての授業力の向上を図る。 【評価指標】 ・「授業に集中して一生懸命取り組んでいる」 生徒：80%以上 ・「先生はわかりやすい授業を行っている」 生徒：80%以上 ・「授業がわかりやすいと子どもが言っている」 保護者：70%以上 ・「生徒は授業に意欲的に取り組んでいる」 教職員：80%以上 | ・82%の生徒が「授業に集中している」と回答しており、評価指数を2%上回る結果となった。 ・84%の生徒が「わかりやすい授業である」と回答しており、評価指数を上回った。一方で「授業が分かりやすいと子供が言っている」という項目に対する保護者の回答も88%と前回の調査を30%上回る高水準となった。 ・83%の教員が「生徒は授業に意欲的に取り組んでいる」と回答しており、前年度よりも約10%上昇している。 | A | ・家庭学習については家庭への啓発を今以上に行った方がいいのではないかと。 | ・①の項目については全て評価指標を上回る結果となっており、授業研究会や教職員同士の授業参観の成果が見られるが、今後も継続的な取組が必要である。 ・前年度に比べて職員の授業参観への参加率は上昇したものの、実施した学期によっては参加率が低いこともあったので、さらに多くの教職員の参加が得られるように実施方法や実施時期を検討する。 |
| ②家庭で学習に使える時間を増やすことをめざす。 ②テスト前の家庭学習の時間を充実させる。 | ・ノーメディアデーを継続的に実施し、家庭で学習に使える時間を増やす。 ・テスト前に目標シートを配布し、見直しをもって家庭学習に取り組めるようにする。 【評価指標】 ・「毎日家庭学習ができています」 生徒：80%以上 ・「家庭学習の習慣がついている」 保護者：80%以上 | ・「毎日家庭学習ができています」と答えた生徒は66%で、「家庭学習の習慣がついている」と答えた保護者が78%となり、ともに前年度調査の結果を上回ったものの、評価指数を下回る結果となった。 | B | | ・アンケートから昨年度よりも家庭学習の習慣は身につけてきていることが分かるが、家庭学習強化週間の取組では振り返りが不十分な部分もあった。そのため、次年度は丁寧に振り返りをさせたい。 |
| 3【人権教育】 | | | | | |
| ①「人間の尊厳」を基盤に据え、全教育活動を通して人権教育の推進に努める。 | ・校内研修の充実を図り、外部講師の招へいや学年毎の教材研究等を推進する。 【評価指標】 ・「人権教育への理解が深まったと感じる」 教職員：80%以上 | ・97%の教職員が人権教育への理解が深まったと回答しており、昨年度より4%上回った。本年度も各学年で人権講演会を開催し、人権学習を進めることができた(昨年度93%) | A | ・今後も継続的に取り組んでほしい。 | ・様々な人権課題に関して、最新の知識や考え方を学び、日々の教育活動に活かすため講師を招きたい。また、地域のことをよく知り、生徒の家庭的背景も理解したうえで人権教育をすすめていきたい。 |
| ②認め合える仲間づくりを通して、自尊感情を高める。 ②いじめや差別を許さない強い意志と実践力を備えた生徒の育成に努める。 | ・班活動や学校行事等、級友と力を合わせる機会を積極的に設定する。 ・生徒の言動や表情の変化に留意し、いじめ問題等の早期発見・早期対応に努める。 【評価指標】 ・「先生は一人一人を大切にされた教育(指導)をしていると感じる」 生徒：80%以上 ・「自分や周りの人の人権を大切にできている」 生徒：80%以上 ・「学校は人権を大切にされた教育を実践できている」 保護者：80%以上 | ・80%の生徒が、先生は一人一人を大切にされた教育をしていると回答しており、評価指標を上回った。(昨年度85%) ・88%の生徒が、自分や周りの人の人権を大切にできていると回答しており、評価指標を上回った。(昨年度93%) ・97%の保護者が、学校は人権を大切にされた教育を実践していると回答しており、評価指標を上回った。(昨年度87%) | A | | ・全ての項目において、評価指標を上回っているが、昨年度より下回る項目もみられた。次年度は、今年度を上回る結果となるよう教育活動を充実させたい。 ・教職員は今年度以上に生徒一人一人を大切にされた言葉がけや態度に留意し、人権感覚をさらに磨く必要がある。そのために、校内研修を充実させて人権を大切にする意識を教職員間で共有したい。 |
| 4【道徳教育】 | | | | | |
| ①自分の内面を見つめ、人間としてより良く生きようとする態度を育てる。 ①命の尊厳を理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する心を養う。 | ・生徒の実態把握に努め、実態に合わせた価値項目の授業を計画的に実践する。 ・教科書の活用とともに、生徒の心に響く教材等を探索する。 【評価指標】 ・「道徳の授業が大切だと感じている」 生徒：80%以上 ・「生徒に道徳性(モラル)の向上を意識した指導(声かけ)を心がけている」 教職員：90%以上 | ・生徒の79%が、道徳の授業が大切だと思うと回答したが、昨年度の86%を上回ることができなかった。 ・94%の教職員が、生徒に道徳性の向上を意識した指導を心がけていると回答し、昨年度の92%を上回ることができた。 | B | ・今後も継続的に取り組んでほしい。 | ・校内研修や授業研究、研究会への参加などに努め、生徒の心に響く道徳の授業を実践する。これまでの取組に加え、より継続的に改善に努める。 |

「評価」の基準 A：十分達成できた B：おおむね達成できた C：達成できなかった

| 学校教育目標：たくましくしなやかに、明るい未来を創造することができる、知・徳・体の調和がとれた生徒の育成 | | | | | |
|---|--|---|----|--|--|
| 本年度の重点目標 (評価項目) | 具体的な活動計画 及び 評価指標 | 自己評価 | | 学校関係者評価 意見 | 次年度への 課題と改善策 |
| | | 達成状況と実施状況 | 評価 | | |
| 5 特別支援教育 | | | | | |
| ①ユニバーサルデザインの視点に立った教室内の環境や授業づくりに努め、わかりやすい授業を推進する。 | ・教員間及び生徒や保護者との情報交換を通して、より学習が深まるよう配慮する。 【評価指標】 ・「生徒の特性を理解した指導（声かけ）の工夫ができています」 教職員：90%以上 ・「ユニバーサルデザインの視点に立った授業を心がけている」 教職員：90%以上 | ・生徒の特性を理解した指導（声かけ）の工夫ができていますと回答した教職員は100%で、昨年度の97%を上回ることができました。 ・ユニバーサルデザインの視点に立った授業を心がけていると回答した教職員は93%で、目標の数値を達成することができました。 | A | ・今後も継続的に取り組んでほしい。 | ・引き続き、生徒一人一人が「わかる・できる」を体験できる授業を展開するために、家庭との連携を密にし、ユニバーサルデザインを意識した授業構成、教室環境づくりを進め、居心地が良く安心して学習できる学校を目指したい。 |
| ②特別支援教育に関する学びの場に積極的に参加する。 | ・研修した内容や参考になる取組等を、速やかに教職員に伝達し、実践に生かす。 【評価指標】 ・「特別支援教育への理解が深まったと感じる」 教職員：80%以上 | ・94%の教職員が特別支援教育への理解が深まったと感じていると回答し、目標の数値を達成することはできたが、昨年度より2%減少した。 | A | | ・積極的に特別支援教育に関することを発信し、研修会で配布された資料を回覧したり、参考になる動画の視聴を勧めたりすることで教職員全体の理解を深めていきたい。 |
| 6 キャリア教育 | | | | | |
| ①社会における自らの役割や将来の生き方について考え、進路選択のための準備をすすめる生徒を育成する。 | ・総合的な学習の時間の充実を図るとともに、各教科等との連携した教育活動を展開して、学ぶことと自己の将来とを関連付けた指導を行う。 【評価指標】 ・「自分の進路選択のために情報収集ができています」 生徒：60%以上 | ・生徒たちは、タブレットを使って自分の進路選択のために情報収集ができた。 | B | ・学校内だけでなく、どんどん外に出て活動する機会があればよい。そのような経験を重ねることで、言葉遣いや礼儀なども身につくのではないかと。 | ・学校に支給されているタブレット端末も適切に活用し、1年次から継続的に進路選択のために情報収集する時間を確保していきたい。 |
| ②人とのつながりを大切に考え、社会の一員としての自覚を持ち、集団生活に進んで参加する生徒を育成する。 | ・自他の良さに気づき、学校生活・社会生活に意欲的に取り組む教育活動を展開する。進路選択に向けて、分かりやすい情報の提供と適切な指導助言を行う。 【評価指標】 ・「将来に対する夢や希望をもつことができています」 生徒：70%以上 ・「生徒に適切な進路選択ができるような指導（声かけ）を心がけている」 教職員：90%以上 | ・将来に対する夢や希望をもつことができていますと答えた生徒は、7割を超え目標の数値を達成することができた。 ・生徒に適切な進路選択ができるような指導を心がけている教職員も9割を超え、目標の数値を達成することができた。 | A | | ・職場体験の再開に向けての学習の計画を立案し、職業講話を通して働くことに対する意欲が高まる生徒を育てる。多くの職業講話を行うことで、生徒に自分の夢や将来について考える機会を与えることができるのではないかと考える。 |
| 7 生徒指導 | | | | | |
| ①集団生活のきまりを守れる生徒の育成をめざす。 ①将来、社会的に自己実現できるような、自己指導能力の育成をめざす。 | ・服装違反を繰り返す生徒及びその保護者への働きかけを粘り強く行う。 ・生徒会活動等で、正しい服装のあり方について考え、呼びかけを行う。 【評価指標】 ・「正しい服装で学校生活を送っている」 生徒：95%以上 ・「生徒のルール違反や問題行動等に対して、粘り強く指導した」 教職員：95%以上 | ・粘り強く指導をしたという教職員は100%で、生徒も95%が正しい服装をできていると答えた。指導の成果が表れている。 | A | ・人なつっこさは本校の生徒の良さでもあるが、その反面馴れ馴れしい言葉遣いとなってしまっているのではないかと。継続的な指導が必要である。 | ・教職員の意識が高まった成果として結果が伴ったと考えられる。本校職員の指導に自信をもち、次年度は正しい服装ができる生徒100%を目指す。また、あいさつの部分で、生徒の感覚と実際の状況に大きな乖離があるので、自他共にあいさつができたということ徹底して取り組んでいきたい。 |
| ②温かい言葉を大切に、正しい言葉遣いが身に付くようにする。 | ・生徒会活動等で、正しい言葉遣いができるようにするために生徒主体の運動を実施する。 【評価指標】 ・「正しい言葉遣いができています」 生徒：90%以上 ・「意識して正しい言葉遣いを生徒に指導した」 教職員：95% | ・生徒全体では85%、教職員では85%と、目標達成には至らなかった。特に2年生で83%と低かった。 | C | | ・生徒と教職員の距離感が近すぎることが目標達成に至らなかった原因と考えられる。メリハリをつけた指導ができるように、教職員の意識改善に取り組む。 |
| ③日々の実践を通して、生徒との信頼関係を構築するとともに、生活アンケートを活用し、生徒の気持ちの変化にいち早く気付くことに努める。 | ・生徒支援委員会で、支援や指導が必要な生徒に関する共通理解を図るとともに、教職員間の情報交換を密に行う。 【評価指標】 ・「困ったことや悩み事があれば、相談できる先生がいる」 生徒：80%以上 ・「学校は生徒の問題行動に対して適切な指導をしている」 保護者：80%以上 ・「生徒の相談に親身になって対応した」 教職員：100% | ・評価指標に基づくそれぞれの項目では、生徒63%、保護者88%、教職員で100%となった。保護者と教職員で目標をクリアできた。 | B | | ・教職員の対応においては概ね満足できるものと考えられる。平素より、各学年の対応も素早く、きめ細かい指導の成果が表れてきている。次年度は生徒への積極的な声かけを行い、アンケートの回数を増やすなどして、生徒の様子に早めに気づけるようにする。 |
| 8 保健指導 | | | | | |
| ①定期健康診断の二次検診受診率のさらなる向上をめざす。 | ・検診結果通知やほけん日より、受診の必要性を周知する。 ・PTC時に個々の定期健康診断結果を配付し、受診を促す。 【評価指標】 ・二次検診受診率（検診結果通知の返却率） 保護者：70%以上 | ・保護者アンケートによる健康診断後の二次検診受診率は66.0%と昨年度よりも1.0%増加した。 ・実際に学校に受診報告が提出されたのは23.7%と昨年度より6.5%減少し、評価指標も達成することができなかった。 | C | ・二次検診受診については家庭の協力が必要である。親の意識の問題でもある。 | ・昨年度より二次検診受診率が増加したものの評価指数は達成できていないため、次年度も二次検診の重要性を保護者へ周知することで受診率向上を目指していく。 |
| ②生活リズムの改善と生活習慣病の予防に努める。 ②規則正しい生活習慣に改善しようとする意欲の向上に努める。 | ・栄養教諭と協力をして、肥満度の高い生徒へ個別指導を行う。 ・アンケート調査を実施し、生活習慣を改善するための取組と指導を行う。 【評価指標】 ・自己評価で「私は、健康に過ごすために、生活リズムを整えるなど、心がけることができています」 生徒：75%以上 | ・健康な生活を心がけていると回答した生徒は、「そう思う」、「ややそう思う」を合わせると79.0%と昨年度から2.0%増加した。 ・適切な睡眠時間の確保について保護者アンケートでは、「そう思う」、「ややそう思う」を合わせると93.0%と昨年度より29.0%増加し、評価指標を達成できた。 | A | | ・継続した取組や啓発活動で健康的な生活を実践しようとする態度や意欲の向上につながってきているが、十分とはいえないため、引き続き、規則正しい生活習慣を送るための取組や保健指導、啓発活動を行っていく。 |

「評価」の基準 A：十分達成できた B：おおむね達成できた C：達成できなかった

| 学校教育目標：たくましくしなやかに、明るい未来を創造することができる、知・徳・体の調和がとれた生徒の育成 | | | | | |
|--|--|--|----|--|---|
| 本年度の重点目標 (評価項目) | 具体的な活動計画 及び 評価指標 | 自己評価 | | 学校関係者評価 意見 | 次年度への 課題と改善策 |
| | | 達成状況と実施状況 | 評価 | | |
| 9 (生徒会活動) | | | | | |
| ①元気なあいさつができる「加茂名中学校生の集団づくり」をめざす。 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部が中心となって、専門委員会や各部活動と連携して朝のあいさつ運動を実施する。 生徒会新聞であいさつ推進に関する内容を取り上げる。 【評価指標】 <ul style="list-style-type: none"> 「あいさつができています」生徒：80%以上 「加茂名中学生はあいさつができています」保護者：80%以上 | <ul style="list-style-type: none"> あいさつができていますと回答した生徒は「そう思う」、「ややそう思う」を合わせると88%であった。 加茂名中学生はあいさつができていますと回答した保護者「そう思う」、「ややそう思う」を合わせると88%であった。双方ともに評価指標に到達した。 生徒会新聞であいさつ推進に関する内容を取り上げる計画を立てていたが、準備や役割分担が不十分で、十分に実施することができなかった。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 生徒が自主的に取り組むことができる場や機会が多く設けられていることが大切である。 | <ul style="list-style-type: none"> 各部活動と連携し、朝のあいさつ運動を実施することができた。一方で、各専門委員会との連携については十分に行うことができなかった。次年度は、年度当初に専門委員会との話し合いの機会を設け、計画的に取り組められるようにしたい。 生徒会新聞については、発行時期や担当を事前に決め、あいさつ運動の様子を具体的に取り上げることで、計画的に取り組んでいきたい。 |
| ②全生徒会専門委員会の各活動を活性化させる。 ②各委員会で視野を広げ幅広い活動を行っていき、各委員会ごとに所属している生徒全員が参加できる活動を計画する。 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒会専門委員会で、具体的な目標や実践項目を決め、生徒会執行部の中でもその活動を振り返り、よりよい活動を目指していく。 生徒会新聞やホワイトボードを通して、活動を周知し、月1回以上専門委員会での活動を行う。 【評価指標】 <ul style="list-style-type: none"> 「専門委員会の活動に意欲的に取り組んだ」生徒：70%以上 | <ul style="list-style-type: none"> 58%の生徒が意欲的に取り組んだと回答した。評価指標に到達できなかった。 毎月、具体的な目標や実践項目を決めて活動できた。 | B | | <ul style="list-style-type: none"> 各委員会で活動日・活動内容を決めて、月に1回以上の活動ができた委員会があった。そうでない委員会も引き継ぎ、掲示物や生徒会新聞などを活用して、委員会活動への関心を高めていきたい。 また、毎月の委員会の中で各担当教員が生徒が参加できる活動へ生徒を導く必要がある。 |
| ③文化祭で、全学年の生徒が積極的に自己表現活動に取り組み、表現の部に参加できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 文化祭への参加を広く呼びかけ、生徒会執行部が中心となってその運営を行う。 全生徒で参加しやすいような取り組みを生徒会執行部で企画する。 【評価指標】 <ul style="list-style-type: none"> 「文化祭の活動に意欲的に取り組んだ」生徒：75%以上 | <ul style="list-style-type: none"> 文化祭の活動に意欲的に取り組んだと回答した生徒は「そう思う」、「ややそう思う」を合わせると81%であった。昨年度よりも8%も上昇した。評価指標に到達できた。 | A | | <ul style="list-style-type: none"> 今年度の文化祭では、全学年が出し物に参加し、運営・進行を行うことができた。一方で、有志参加者は3年生に偏っていたため、次年度は1・2年生も参加しやすいよう、呼びかけや掲示の工夫を行ってほしい。 |
| 10 (図書館教育) | | | | | |
| ①図書室の利用を増やすため、図書委員会活動の活性化し、昨年度よりも利用者数の増加をめざす。 | <ul style="list-style-type: none"> 学年の利用日は朝学活で知らせるなど図書委員が積極的に呼びかける。 生徒が図書室を訪れるきっかけとなるようなイベントや活動を、図書委員が中心となって行う。 【評価指標】 <ul style="list-style-type: none"> 「学年利用日に図書室を訪れた人数」生徒：各学年30%以上 「学級文庫、学年文庫、図書室のすべてを合わせて年間5冊以上読んだことがある」生徒：30%以上 | <ul style="list-style-type: none"> 図書室を利用したと回答した生徒は「そう思う」、「ややそう思う」を合わせると30%であった。図書委員は、図書室の開館や利用の呼びかけ、学級文庫の管理や入れ替え、授業時の辞書の回収、購入した図書の受け入れや配置など活発な活動が行えた。 読書数は「そう思う」が29%、「ややそう思う」を合わせると47%が目標を達成した。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 今後も継続的に取り組んでほしい。 | <ul style="list-style-type: none"> 図書委員がたいへん意欲的に活動したので、次年度の活動に引き継ぎたい。 漢和辞典10種類を数冊ずつ、各学年に1クラス人数分配置し、授業中1人1冊持てるようにした。辞書ごとに内容が違いため、比べることで理解が深まり語句への興味も増した。国語辞典と併せて今後も活用してほしい。 |
| 11 (食育) | | | | | |
| ①基本的な生活習慣の定着をめざす。 | <ul style="list-style-type: none"> おたよりや掲示物を作成する。 授業や給食の時間を通して食に関する指導を行う。 【評価指標】 <ul style="list-style-type: none"> 「毎日、朝・昼・晩の食事を食べている」生徒：80%以上 | <ul style="list-style-type: none"> おたよりや掲示物を作成し、職員室前の掲示板に掲示することができた。 「毎日、朝・昼・晩の食事を食べている」に対して「そう思う」の回答が77%、「ややそう思う」の回答が13%と合わせて90%であり、目標の80%を達成できた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 今後も継続的に取り組んでほしい。 | |
| ②自分に必要な栄養や食事の量がわかる生徒を育てる。 | <ul style="list-style-type: none"> 給食委員会で残食調査やポスターの作成を行う。 授業や給食の時間を通して食に関する指導を行う。 【評価指標】 <ul style="list-style-type: none"> 「給食を好き嫌いをせず、残さず食べている」生徒：75%以上 | <ul style="list-style-type: none"> 毎日、給食委員会が小おかずと主食の残食量を確認している。 「給食を好き嫌いをせず、残さず食べている」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答えた生徒は合わせて68%であり、評価指標の75%には届かなかった。 | B | | <ul style="list-style-type: none"> 本年度は目標値を10%上回る結果が出たことから、生徒に基本的な生活習慣が身についていると分かった。次年度以降もこの数値を維持するため、日々の指導を続けるとともに、入学時や進級時の環境が変わる時期にしっかりと指導をしていきたい。 残食量調査により、どの献立で残食が多いかを把握することができたため、次年度以降、該当献立の残食を減らす工夫・指導を行ってほしい。 |
| 12 (安全教育) | | | | | |
| ①加害者にも被害者にもならないよう交通ルールやマナーの徹底を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 全教職員による校外安全指導を月1回実施するとともに、校門付近での登下校指導を毎日実施する。 登下校時の状況について、学級活動や集会等で繰り返し啓発する。 【評価指標】 <ul style="list-style-type: none"> 「通学時にヘルメットを必ず着用している」生徒：100% 「交通ルールやマナーを守って登下校している」生徒：100% | <ul style="list-style-type: none"> 月1回の校外安全指導や、各学級での安全指導を通して、「通学時にヘルメットを必ず着用している」と答えた生徒は97%と、昨年度より1%低下した。(昨年度98%) 交通ルールやマナーを守って登下校していると回答した生徒は98%と昨年度より1%低下した。(昨年度99%) | B | <ul style="list-style-type: none"> 下校時に自転車のマナーを守っている姿をよく見かける。引き続き指導をお願いしたい。 防災についても学校内だけでなく地域へ出向いて活動の場を広げてほしい。 | <ul style="list-style-type: none"> 地域の方からの登下校の交通ルールやマナーに関する連絡が複数件あり、保護者アンケートにおいても、「交通ルールやマナーを守っている」と答えた家庭は88%と、生徒アンケートとの差異がある。次年度以降、より具体的な指導を通して、マナーアップに努めていかなくてはならない。 |
| ②自然災害等、緊急避難時に安全で適切な行動がとれるように指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> 様々な状況を想定して、複数回、避難訓練を実施する。 【評価指標】 <ul style="list-style-type: none"> 「緊急事態時の避難方法を知っている」生徒：100% | <ul style="list-style-type: none"> 3学期に実施した抜き打ちの避難訓練で、全校生徒が自ら運動場に避難できた。 「緊急事態時の避難方法を知っている」生徒が82%と昨年度より、14%低下した。(昨年度96%) | B | | <ul style="list-style-type: none"> 登下校も含めた学校生活のあらゆる場面を想定し、訓練や指導を行い、生徒の安心安全につなげていく。 |

「評定」の基準 A：十分達成できた B：おおむね達成できた C：達成できなかった

| 学校教育目標：たくましくしなやかに、明るい未来を創造することができる、知・徳・体の調和がとれた生徒の育成 | | | | | |
|--|---|---|----|---|---|
| 本年度の重点目標 (評価項目) | 具体的な活動計画 及び 評価指標 | 自己評価 | | 学校関係者評価 意見 | 次年度への 課題と改善策 |
| | | 達成状況と実施状況 | 評価 | | |
| 13 環境教育 | | | | | |
| ①将来にわたり、限られた資源を大切に する意識を育てる。 | ・節電や節水を意識できるよう、 グラフを掲示するなどして 広報する。 【評価指標】 ・電気代や水道代を昨年度より 削減する。 ・「節電・節水・ゴミの分別を 意識している」 生徒：85%以上 | ・専門委員会において何 度か月目標として取り上げ、 全校生徒に呼びかけを行った。 また、ポスター等で可視的に 呼びかけを行った。 ・電気・水道使用量ともに 昨年度よりわずかであるが 増えている。 ・82%の生徒が節電・節水・ ゴミの分別を意識していると 回答した。昨年度とほぼ同 じであった。 | B | ・今後も継続的に 取り組んでほしい。 | ・電気使用量をグラフ化し、 専門委員会を通して伝達、 掲示して全校生徒に知らせ た。しかし、全学年共通して 月目標として取り組んだのが 12月であったので、もう少し 早い段階で取り組むことを課 題とする。 ・節電・節水・ゴミの分別に ついて、全校生徒へ今一度 呼びかけを行う。水道使用 量のグラフ化を課題とする。 |
| ②紙の再資源化を推進する。 | ・教室等での資源ごみ回収を 呼びかけ、一人一人の意識を 高める。 【評価指標】 ・「ごみの減量や紙の再資源 化に積極的に取り組んでいる」 教職員：80%以上 | ・職員相互の声かけにより 資源ごみの分別ができている。 ・97%の教職員がごみの減 量や紙の再資源化に積極的に 取り組んでいると回答した。 昨年度より8%と大幅に増 えた。 | A | ・職員相互の呼びかけや声 かけをさらに増やし、資源 ごみの分別をこれからも徹 底する。 ・個人情報保護の観点から 分別時に配慮することも必 要である。 | ・清掃時の指導を徹底、改 善する必要がある。生徒と 共に清掃活動に取り組んだり 、声かけをしたり、気持ち のよい環境が落ち着いた学校 生活にもつながることを伝 えていく。 |
| ③生徒会活動や清掃活動 を推進し、美しい学校環境 づくりに努める。 | ・清掃活動時間の充実を図 るとともに、ボランティア活 動を推奨する。 【評価指標】 ・「清掃活動に進んで取り組 んだ」 生徒：85%以上 | ・KCLG活動などに積極的 に取り組む、校舎内外の美化 に取り組めた。 ・77%の生徒が清掃活動に 進んで取り組んだと回答した。 昨年度と同じで、生徒の割 合は当初目標を下回っている。 | B | | |
| 14 情報教育 | | | | | |
| ①情報モラルを守って、 適切に通信機器を活用する ことができる生徒の割合を増 やす。 | ・携帯電話安全教室等の講 習を行う。 ・学級活動等で情報モラルに ついて考える授業を行う。 【評価指標】 ・「情報モラルを守り、通信 機器を適切に活用できている」 生徒：85%以上 | ・情報モラルを守り、通信 機器を適切に活用できている という項目に対して、そう思 うという生徒の回答が48% 、ややそう思うという回答 が39%であった。 | A | ・今後も継続的に 取り組んでほしい。 | ・スマホやSNSの使い方 については保護者の方の協 力を得て、情報モラルの育 成に努め、学校と家庭の両 方からルール、マナーの確 認、指導が必要であると感 じた。 |
| ②タブレット端末を 活用し、自分の考えを深め ることができる生徒の割合 を増やす。 | ・必要に応じて、授業で タブレット端末を活用し、 他の意見を聞いたり、考え を深めたりする機会を増や していく。 【評価指標】 ・「タブレット端末を活用し 、考えを深めることができた」 生徒：80%以上 | ・タブレット端末を活用し 、考えを深めることができた という項目に対して、そう思 うという生徒の回答が33% 、ややそう思うという回答 が36%であった | B | | ・新しい端末も入り、通信 環境も改善され、取り組み やすい状況になっている。 また、研修等を行うこと で、iPadを活用した授業 の実践例を紹介し、多くの 教員が適切に活用できるよう に努めていきたい。 |

「評定」の基準 A：十分達成できた B：おおむね達成できた C：達成できなかった